

RD 最終処分場問題対策委員会 第2回専門部会 概要

日 時	平成19年5月7日(月) 13:15 ~ 15:20
場 所	滋賀県庁 別館 大ホール(2階)
出席者	委員：樋口部会長、江種委員、勝見委員、清水委員、横山委員 アドバイザー：環境省近畿地方環境事務所 富岡係長 川上調査官 (財)産業廃棄物処理事業振興財団 猿田次長 事務局：藤川循環社会推進課長、中村循環社会推進課主席参事、 上田最終処分場特別対策室長
傍聴者 次 第	18名 1 開会 2 議題 (1)現時点での生活環境保全上の支障について (2)焼却炉調査計画について (3)第3回委員会における検討事項 (4)その他 3 閉会
議事概要	<p>【議題(1)現時点での生活環境保全上の支障について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「1.現時点での生活環境保全上の支障について」(資料1)を事務局より説明。 ・ 現時点での生活環境上の支障は 廃棄物の飛散、地下水の利水、焼却炉のダイオキシン類の3点。今後、新たな調査結果等も踏まえ、再度議論することです承。 <p>～質疑応答～</p> <p>(江種委員)・ 表1.14中の廃棄物の現状では、口頭説明にあった西側平坦部法面の崩壊のおそれについて記述がない。</p> <p>(事務局)・ 「廃棄物の飛散のおそれ」が欠落しており、修正する。</p> <p>(横山委員)・ 周辺住民への生活環境調査(アンケート)を行っている。また、植物が枯れたという話もあったがその整理はできないか。</p> <p>(事務局)・ 県では調査をしていない。栗東市が住民への生活環境のアンケート調査や植物への影響調査を実施したと聞いている。</p> <p>(部会長)・ データがあれば、可能な限り出してほしい。</p> <p>(事務局)・ (了解)</p> <p>(勝見委員)・ 表1.14中の記載で廃棄物は覆土されているとあるが、詳細を説明してほしい。廃棄物が覆土されていないとすると、表流水について問題はないか。</p> <p>(事務局)・ 改善命令に伴い処分場内の一部については覆土されている。また、廃棄物がむき出しの部分もあるが、一応安定している。</p> <p>(横山委員)・ 表流水の問題については、地下水位の変化を出せば、わかるのではないか。</p> <p>(清水委員)・ 表流水は地下水と異なりSS(浮遊物質)に起因して汚染物質等が移動するので、注視していく必要がある。</p> <p>(部会長)・ 雨裂の問題については、管理ができていないか事務局の</p>

方で確認をお願いします。

(勝見委員)・ P.3-2 の処分場西市道側平坦部の法面の断面図について、確認方法を教えてほしい。

(部会長)・ 植生の状況もわかるか。

(事務局)・ 縦横比は 1:1。図中「現況地盤線」と記載のある箇所は概ね 1:1.6 ~ 2.0、その下部は概ね 1:0.4 ~ 0.5。また、植生の状況は上部は低木があるが、下部の法面は最近草が根付いたところ。写真 2 からは法面の一部が崩壊していることがわかる。

(部会長)・ 表 1.8 の T-N は全窒素ではなく総窒素(ケルダール窒素)ではないか。

(事務局)・ 確認する。

【焼却炉調査計画について】

・ 「2.焼却炉調査計画について」(資料 2)を事務局より説明。

・ 施設運転時の温度設定について、フローを追って確認すること、また、分析方法は公定法で行うことを確認し、了承。

~ 質疑応答 ~

(勝見委員)・ 重金属は測定しないのか。

(事務局)・ 現時点では考えていない。

(部会長)・ 廃棄物の飛散の問題からすると、ダイオキシン類でよいと思われるが、異常値等が出れば、他項目の調査もあり得ると思う。

・ 表 2.2 中の に集塵機下部のばいじんはサンプリング可能か。

(事務局)・ 可能である。

(清水委員)・ 図 2.1 南側焼却炉フロー図の のサンプリング位置の図示はもう少し下方にした方がわかりやすい。

(事務局)・ 修正する。

(清水委員)・ ロータリーキルンでのサンプリング不要の理由を明確にするため、施設運転時の温度設定について、フローを追って確認をお願いしたい。

(事務局)・ (了承)

(部会長)・ 分析方法については、当初は簡易法(生物検定法)で行い、異常値が出れば公定法(ガスマス分析)で行うという考えか。

(事務局)・ 全体を通して簡易法で行い、異常値を示す箇所については再度、公定法で行うことを考えている。

(清水委員)・ 生物検定法でダイオキシン類の測定を行う場合は、公定法との相関を見る必要がある。今回の場合は 1 回きりなので、公定法で行う方がコスト的にはかからない。

(事務局)・ 公定法で実施する。

【第 3 回委員会からにおける検討事項】

・ 「3.第 3 回委員会における検討事項」(資料 3)を事務局より説明。

1. 含有分析について

分析方法

- ・ 既往データとの比較・整合をとるために、環告第 19 号で実施するが、必要に応じてその他の方法も検討することです承。

～質疑応答～

(部会長)・ 事務局は土壤汚染対策法に基づく酸抽出法で十分ということであるが、対策委員会では酸性雨の影響も考慮したEPAの方法がよいという提案が出ている。

- ・ EPAの方法では比較するデータが少なく評価する方法に問題が出てくる。土壤汚染対策法の酸抽出法は体内に取り込まれた時を想定しており、健康面に十分に対処されていると考える。

(横山委員)・ (土壤環境基準を大幅に超えた場合等)必要に応じて追加すればどうか。

分析項目

- ・ 保留とし、別途議論する。

～質疑応答～

(部会長)・ 事務局案は、溶出基準を上回っているものについて含有試験を行うということであるが、どうか。

(勝見委員)・ 土壤汚染対策法では、溶出試験・含有試験の両方を行うのが基本だと思う。

- ・ この現場では地下水が生活環境保全上の支障であるため、溶出試験を行い、さらに厳選した試料について含有試験を行えばよいと思う。
- ・ なお、含有量では、全含有量との誤解を生じるので、疑似含有量として扱う方がよいのではないか。

(江種委員)・ 溶出量基準が設定された物質は移動性が高いものを含み、まず溶出試験を行う方がよい。法律に照らすと溶出量基準を超過した場合に含有試験を行う形になると思う。

- ・ 一律に溶出量基準を超過した場合に、含有試験をするのではなく、含有試験の実施は、専門部会や対策委員会で議論するなど、柔軟性を持たせる必要がある。

(清水委員)・ 溶出試験で不検出でも、疑似含有試験で検出されることが多い。

- ・ 法律的な解釈より、住民に安全・安心を説明し、理解していただくことが必要である。このため、まず含有量ありきと考える。
- ・ 含有試験で検出されても接触しなければかまわない、溶出試験では基準を超えないから、地下水を飲まないなどの対策をとれば安全ですよなどと説明し、呼びかけ、安心をしてもらうのが流れではないか。

(横山委員)・ 合理的な理由、目的がある場合は含有量もやればよいのではないか。

2. ビスフェノールA

- ・ ECで異常値があればビスフェノールAも検討することです承。

～質疑応答～

- (横山委員)・ 栗東市の委員会において調査の要望が高く、追加してほしい。栗東市では、定期的に調査しているものではない。
- (清水委員)・ プラスチックのあるところは必ず検出されるものであり、地下水の流れの指標にすることも疑問。実施理由が不明である。
- (江種委員)・ ビスフェノールA流れの指標に扱われたことが無く、疑問である。
- (部会長)・ 参考資料では、電気伝導率(EC)との比較的高い相関が得られていることから、ECで異常値があれば場合によって分析することではどうか。

3. 有機物調査

浸透水・地下水

- ・ 事務局案(CODの他にBODを追加。窒素について、亜硝酸、硝酸、アンモニア性窒素を含めて分析)です承。

～質疑応答～

- (清水委員)・ BODはBOD 5(5日間の測定)か、最終BODか。
- (事務局)・ BOD 5である。
- (清水委員)・ 恐らく亜硝酸は検出しないが、確認のために測ることに反対はしない。
- (部会長)・ 処分場の場合、まれに亜硝酸のままとどまり、そのためCODの値まで上がってしまうケースがある。

廃棄物・土壌

- ・ 事務局案(孔内温度とガス濃度が高いところの熱灼減量の測定)に、COD_{sed}を追加することです承。

～委員意見～

- (部会長)・ ボーリング孔内温度が特異な温度、40～50あるようなところ(発酵により発生ガスが多いところ)は分析してほしい。
- (清水委員)・ 温度が高いところ、ガスの発生量が多いところを止めるのではなく、分解を促進させる方がよい。
- ・ 有機物の総量は熱灼減量でよい。厳密な固形物のTOC(全炭素)までは必要がないと思う。
- ・ 有機物総量(熱灼減量)だけでなく、硫酸還元菌やメタン生成菌が最終的に分解する有機物の量を見るために、COD_{sed}も測ってほしい。

4. 油分分析について

- ・ IR法での油分測定を行う。ただし、測定結果が著しく高い場合に

は、多環芳香族を測る可能性もあるとして了承。

～委員意見～

- (清水委員)・ 資料に油が埋め立てられた記述があり、レジン、アスファルテン、多環芳香族が含まれる可能性がある。これらは移動性がないので、地下水中ではほぼ動かないから、目や鼻で確認して、油分濃度をIR法で測定することで問題ない。
- ・ IRで測って異常値が出た場合には、多環芳香族も測る可能性を持たせればよいと考える。

【その他】

- ・ 調査については、5月中に業者を決定し、廃棄物層ボーリングは6月下旬となる旨を事務局より説明
- ・ 委員提供資料、 を事務局から紹介。

【閉会】